

千曲市議会議長 小玉 新市様
千曲市建設常任委員長 中村 真一様

令和6年4月25日
千曲市の発展を願う会
代表 児島 保彦

大型開発の事業計画について情報の開示とその説明を求めます

私たちの市民団体は、千曲市の恵まれた経済環境を活かし、選択と集中によって最大の投資効果を上げ、未来の子供たちに夢と希望を与えるまちにすることを目的にしています。

したがって、開発自体に反対する者ではありませんが、そのためには精度の高い費用対効果が明確であることが条件です。

市議会では令和6年度千曲市の一般会計予算について宮下議員の反対討論がありました。多くの問題点や疑問があることを知りました。同時に千曲市の将来を左右する大開発について、市民にはほとんど情報がないことも痛感しました。

この度、市民の末代までかかわる巨大な開発事業が決議されましたが、決議機関である市議会は詳しい資料や説明のもとに審議されたと思いますので、情報公開法に基づき情報の公開や事実関係の説明あるいはご意見をお聞かせ下さい。なお、私たち市民団体は市にも同様な内容で情報公開及び説明責任を求めています。

また、今回のお願いに付きましては、市民の知りたいことを網羅していると思いますので、議会の広報等で広く市民に知らせていただければ幸いです。

都市計画について（以下は情報の公開または説明を求める項目です）

1. 令和6年度予算額は過去2番目の309億5000万円で可決されました。

これは小川市長が2年前に第三次総合計画で自ら作成した令和6年度の財政計画の予算額262億2700万円に対して47億2300万円も激増しています。

今後の中期財政試算の令和6年から10年をみましても、地方税の税収と地方債で投資的経費を賄う典型的な超過予算といえます。その中心となる開発事業は、なんと60年も前の昭和40年3月に作成した都市計画道路一重山線です。

第三次総合計画と本年度の財政計画の予算額が大幅に乖離していますが、どのように受け止めていますか。

2. 60年前と言えば、日本の復興が軌道に乗り、はじめて新幹線が走ったころです。最近では先行投資などするまちは減多にありませんし、財政難の国や県が投資効果も定かではない巨額の開発に同意するなど想像できません。したがって、市民の感覚では先線の可能性はないと判断していますが、市議会が同意する根拠について説明してください。
3. その一部である屋代打沢線は、1m300万円から500万円もかかるトンネルを掘り、北陸新幹線の下を潜り、技術的困難と思われるしなの鉄道をクロスし、百軒に近い建物の全額補償をしなければなりません。想像もできない巨額の費用と予測のつかない年月がかかります。
開発費は当然千曲市の力では不可能ですので財源はすべて国や県であり、そのために説得力のある費用対効果が必要になります。
市議会は審議の結果、了承したのですから、千曲市や国や県にどのような経済効果があるのか、説明してください。
4. 先線の財源は国ですから「絵に描いた餅」に過ぎません。屋代地区および今回の予算した開発はネットワーク構想の一環であることを理由にして正当性を主張することは、市民に誤った判断を与えるだけだと考えます。屋代地区他の開発と先線はいったん切り離して、単独の開発として考えるべきだと考えますが、市議会は屋代開発をどのように位置づけているのか説明してください。

屋代開発について(SIC、市道一重山2号線、屋代地区の開発を総称)

屋代 SIC は長野経済研究所の波及効果の調査では費用が5億円であり、市道一重山2号線の市の予算では18億4000万円でした。合計23億4000万円でしたが、1・2年のうちにSICが約5倍の24億円、市道一重山2号線はなんと2倍強の39億円、合計63億という巨額の先行投資になりました。

当初の総額23億円の経済効果はあったかもしれませんが、3倍近い63億円になれば、当然、前提が全く違うのですから計画自体の是非を問われなければなりません。

しかし、千曲市の市政は費用対効果について説明もないまま、市議会は圧倒的多数で採決してしまいました。我々納税者の市民には情報公開も説明責任も果たしていません。

次代を担う若者たちにも及ぶ重大な案件が、市民不在の中で安易に決定がされてしまったのです。わたしたち市民団体は断じて容認できません。市民は知る権利がありますから誠実にお答えください。

1. 過日、打沢屋代間の整備促進期成同盟会で、屋代地区の地権者代表の林氏は「一重山線ができないと、240人以上の地権者をまとめてすすめてきた計画が仇になる危機感がある。トンネルでダメなら山越えでもよいからやっていただきたい」と、発言した議事録があります。この先線が不可能になった場合、屋代地区の開発もだめになり、巨額の先行投資も無駄になることを言っていますので、どのように受け止めますか、説明してください。
2. 林氏は先線が出来なければ屋代開発は仇になると言っていますので、開通不能のために今検討中のデベロッパーが撤退したとすれば、屋代開発は全く無駄な投資になります。市議会は、先線は必ず成功する確証があるのですか？お尋ねとします。市民は確証などあるはずがないと思いますので、採決された市議会の責任は重大です。今後どのような対応されるのかお聞きします。
3. SCIも国道403号線関係も当初は国や県の負担を前提にすすめたはずですが、市の負担が予想を大幅に超えたと聞いております。先にも申しました通り、SICは令和2年に長野経済研究所の調査では市の負担は5億円でしたが、認可時には24億円になっていました。また、市道一重山2号線も令和4年の事業費は18億4000万円でしたが、39億円になっています。合計すると、当初の事業費は23億4000万円だったのが、1・2年後の令和5年にはなんと63億円と信じられない金額になっていました。民間であれば新たに事業をする場合、千曲市のように当初の予算が、SICは5倍、一重山線は2倍、総額3倍も膨らむような企画は議題にも挙げるできません。チェック機能を持つ市議会が3倍にも膨らんだ事業費を何の疑いもなく決議した根拠はどこにあるのですか、数字で説明してください。
4. 総投資額が63億円も投資して費用対効果はあるのですか。かつて屋代地区の開発で調査した結果は固定資産税が年間2億円足らずです。今回のように周辺を整備すれば、千曲市の規模からすると天文学的な投資額になり、経済効果どころか大変な赤字を背負うこととなります。開発業者が辞退すれば全く無駄な投資になり財政破綻になる恐れさえあります。その負債は決議した皆さんではなく、市民であり、次代を担う子どもたちなのです。市議会は、なぜ1年や2年のうちに、桁違いの予算に変わる事業を了承したのですか、市民にとって根本的な疑問です。
5. 以上マクロの面でお尋ねしましたが、まずSICについてお尋ねします。実際に走ってみればわかりますが、1分程度の至近距離にインタージャンクションがあり、そのまた1分程度走れば側道の403号線があるにもかかわらず、巨費を投ずる理由がわかりません。令和5年5月の概要書がありますが、その位置づけは、5億円程度

なら理解ができますが 24 億円もかかるなら、全く別の次元の判断になります。開発業者にとっては PR になりますが、千曲市にとっては事業費がかかりすぎるため採算が合いません。どのような新たな経済効果が生まれるのか市民に分かりやすく説明してください。また、2600 台以上の車を対象にしているようですが、調査資料を開示してください。

6. 次に予算が倍増した最大の理由は建物等補償費です。令和 4 年度までは 1 億 4000 万円だったのが、1 年後の令和 5 年にはなんと 13 倍の 17 億 7800 万円の事業費になっています。私たちが入手した調査資料では、該当する土地は 3 社あり、建物総面積は 6942 m²のうち切り取り面積は 514 m²(155 坪)であり、7.4%に過ぎません。仮にこの 3 棟で 12 億円から 15 億円を推定したとして、坪当たりなんと 700 万円から 1000 万円近くになる計算です。このようにわかに信じられない事業計画について以下お尋ねします。
 - ① 巨額の差違の原因は、建物補償費が 1.4 億円の切り取り補償から、桁外れの 18 億円もかかる移転補償に変えたからです。公共補償基準によると、建物面積が 30%以下となっており、当該物件は各々 1%から 12%に過ぎないにもかかわらず、なぜ契約変更までして 13 倍に近い補償にしたのか、理由を説明してください。
 - ② 中でも驚くべき例として、農協系の 2 棟は切り取り面積がたったの 14.2 坪で、補償額が約 6 億円だそうですから、坪当たり 4200 万円になります。銀座や道頓堀の話ではないかと錯覚します。語弊がありますが、市も市議会も市民の血税という意識がないのと、自分のことではないので金銭感覚がマヒしているのではないのでしょうか、本件については住民投票をするぐらいの重要課題です。24 億円も負担する SIC と必要のない道路の拡幅に坪 4200 万円もの補償費を払ってまで、当面不要な事業をする理由はどこにあるのか市議会として説明してください。
 - ③ また、常識では全棟補償するからには所有権は千曲市になると思いますが、そのまま居座ってもよいと聞いています。単なる補償だとすれば、バブル時代の三大都市の中心地を工事しても、このような法外な補償はなかったと思います。私たち市民の感覚と市と市議会の認識の違いが大きすぎて戸惑うばかりです。民間であればこんな異常な補償は論外ですが、行政の論理は他にあるのですか。公共性のメリットもほとんどないと思いますので、市議会として市民に納得のいく説明をしてください。
7. 結論として、屋代開発は国の補償を差し引いて、千曲市の負担する開発費はいくらになるのですか、その場合の経済効果は当初計画とどのように低下するのか、把握されている情報を公開してください。
8. 関連して、先の建物の補償調査において、調査費が当初の 3100 万円から 2 倍近い 5600

万円になっています。かつて区画整理組合の時の調査費はどんどん追加されて最終的には2億円近い巨額になりました。本件に限らず千曲市はコンサルタントの費用が常に倍増しています。民間であれば巨額な無形の調査費が予算の2倍にもなれば、その使途について徹底的に追求されます。どのような契約をしているのですか、説明をしてください。

予算に対する認識について

1. 千曲市は調査費に限らずそのほかの特に大型案件の当初予算との乖離がありすぎて予算ではなく、おおよその見当位の数字でしかありません。

このような見当程度の予算で審議され、決議されてしまうことに市民は不安です。

見積予算は議会において根本的な決定要因ですので、決議自体の信頼性を欠くこととなります。結果的には市民が市政や議会に対する信頼性を失う重大な問題です。失礼ですが、市民の目線で見ますと、千曲市は議会に対し軽視していると思わざるを得ません。それは市民を軽視していることとなります。

千曲市のどこに欠陥があると思いますか。見積もり軽視、市議会軽視、市民軽視に対して、どのようにお考えですか、おたずねします。

2. 開発費が当初の予算の倍になれば、その是非を問うにあたり、市議会だけではなく、市民に納得のいく説明をする義務があります。

小川市政は、市の根幹である高校の編成問題や大規模開発に対して、市議会と市政のブラックボックスの中で決められ、市民には全く情報を開示しません。市民の代表である市議会は情報公開の必要性について、どのようにお考えですか。このままでよいと思いますか。おたずねします。

今後の市議会にお願いすること

1. 最も不可解なことは、現地を見れば誰でもわかりますが、2件とも必要性が見えないにもかかわらず、予算の3倍もかかる巨額の事業を市はもとより市議会も決めたことです。一事不再議などといった法律用語でかわす話ではありませんので、真剣に仕切り直していただきたいと思います。
2. 正常な予算化は、開発業者が確定した上で、双方の役割分担を決め、費用対効果を公開し、市議会はもとより市民も納得する等の過程を経て手続きを踏んでいただきたいと思います。

3. まず、市議会は市長に工事の一時停止を求め、市民が納得のいく手続きを進めていただくことをお願いします。

以上

参考資料

1. 令和6年度当初予算の概要
2. 令和4年－8年財政計画、令和6年10年財政計画の比較
3. 市道一重山2号線建物等補償調査
4. 市道一重山2号線 事業見直し経過表

なお、お手数をおかけしますが、すでに作成された資料や事実関係の確認だけですので、5月20日までにご回答をお願いします。